

遺跡まつり通信

発行 令和1年8月5日

去る7月20日に酒生遺跡まつりを開催しましたところ、地区内外から多数の参加者があり、盛況裡に終了出来ました。祭りの開催に何かとご協力いただきました

皆様には、心より厚く感謝を申し上げます。どうもありがとうございました。今年の遺跡まつりは天候不順のため、やむなく体育館での開催となりましたが、



沢山の参加者で賑わいました。

中でも満足の屋台村

例年、グラウンドが会場の屋台村は、玄関前広場と体育館で分散して開催されました。

玄関前広場では、梅野親和会のお店と鳥八の焼き鳥、荒木新保の鶏ちゃん焼きとおろしそば、商工会のお店が設けられました。

広場中央にはテーブルとイスが置かれ、和やかな雰囲気のもと、多くの人が食事を楽しみながらひと時を過ごしていました。

体育館内では、ガールスカウト、さこう工務店、足羽更生園、JA女性部、咲恋う組、育成会、PTA、酒生ベアーズがそれぞれに趣向を凝らしたお店を展開するとともに、グリーン広場ではちゅうりっぷ児童館が創作活動を行いました。どの店も子供たちが喜びそうなものが企画が多く、いつまでも子供たちが賑わっていました。



定番の出し物で酒生を堪能

最初の出し物は、結成以来20年近く経つ篠尾町の北野竜神太鼓です。長年磨かれた太鼓の音色が体育館の中に響き渡っていました。その後は、あさひ子ども園によるパフォーマンスショー。園のマイクロバスに乗ってやって来た子供たちは既にお揃いの衣装を身に付けて気分は既にアイドルスター。元気な演奏を見せてもらいました。



その後は、やぐらを囲んで地元で活動する民踊のグループが伝統の民踊を披露。炭坑節など馴染みの曲が続いた後、最後は地区の特長を歌い込んだキラリン節を踊りました。

軽快に鳴り響く2本のトランペット

今年のミニコンサートは「トランペットヒーローズ」。郵便局長さんが、趣味が高じてセミプロになられたそうです。それぞれに紅と白の帽子をかぶった男性二人が楽しい話術を交えながらテレビでおなじみの曲などを演奏しました。目の前で演奏されるトランペットの音色は素晴らしいらしく、会場の人達の心を捕えたようでした。



酒生公民館から灯火行列

今年の灯火行列は、荒木新保町と荒木町が担当しました。行列の古代衣装は事前に集落で作ってもらいました。

昨年までは成願寺のふれあい会館が行列の出発点でしたが、今年からは準備などの利便性から酒生公民館。先頭は灯火部会長の荒田さんを先頭に60人の灯火行列が酒生小学校の会場まで行進しました。

厳かな点火式

主会場へ入った灯火行列は小学生が描いたカップに収められたLED灯によって導かれました。酒生の火を出迎えたのは、各集落の自治会長さん達。前年度の自治会連合会長から現会長へと酒生の火が受け継がれ、さらには現会長から各集落の自治会長に酒生の火が移されました。



後は自治会連合会の会長がやぐらの上の聖火台に点火し、酒生の火が燃え上がる形となりました。同時に、体育館の壁面に準備されたLEDの5重の塔が点火され、点火セレモニーは最高の盛り上がりになりました。

力溢れるよさこいイッチョライ

厳かな点火式の後は、咲恋う組による YOSAKOI イッチョライ。溢れんばかりのエネルギーはいつものながら会場を圧倒します。こんなに元気なグループが酒生地区に存在するだけで気持ち豊かになります。

室内開催も良いもんだ

室内開催では絶対的な広さでは明らかに制限を受け



ます。でも考えてみれば、狭いが故の利点も見えてきます。一つは、狭い会場だから参加者同

士が出あう機会が多く、参加者同士の一体感も生まれやすい。本来の目的である地区民の親睦をより達成していると言えます。

二つ目は準備や後始末にかかる手間が少なくて済むということだ。東郷公民館から毎年借用している聖火台、テーブル、いすを借りなくとも済みました。これは、準備や後始末をする役員にとつてはとてもあり難いこ



とです。

野外の魅力も捨てがたい

室内開催は利点ばかりではない。今年は梅雨期間だったので気温は30℃を越えることはなかった。そのため、

体育館内でも窓を開け放せば何とか過ごせた。ただし、梅雨が明けて気温が35度付近まで上がる場合は、体育館の中は大変なことになるでしょう。当然冷房設備が無いから空調は期待できないし、数台の扇風機ではとても間に合わない。熱中症の心配も必要だ。

タイマツを使った点火式は、LEDよりも本物のタイマツに軍配が上がります。厳かな雰囲気と感動は、やはり屋外に分があるはずだ。それに、午後7時付近の日没付近の絶妙な明るさも祭りの厳かな雰囲気に参加している。夏の夜



の解放感も屋外ならではです。こう考えるとちらが良いとは一概に言えないようです。

来年に向けて

室内開催は10年程前に一度経験していたものの、久しぶりということでも当時の記憶を頼りに、出来る限りのことを体育館内で行いました。結果的には、狭いながらも沢山の人が会場の体育館と玄関前に集まり、賑やかな素晴らしい祭りになったと思っております。

来年につきましては、今年の開催で得たものを生かすことを考慮に入れて、地区の皆様方のご協力を得ながらより良き遺跡まつりにしていきたいと考えています。地区を代表する祭りに成長した酒生遺跡まつり。みんなの力で大事に守っていききたいものです。



酒生のお知らせ記事

宿布発電所遺跡を整備中

宿布町には水力発電所跡があります。発電開始は明治3

2年5月で、昭和31年まで57年間の間、発電を続けました。出来た当初は、北陸で2番目、全国でも3番目だったそうです。発電は、アメリカのスタンレー製の発電機を使用し、発電能力は80キロワットでした。その後、2機目が導入され、140キロワットで運用されました。



宿布発電所の建設を担ったのが、現在の熊谷組。当時は石屋さんでしたが、石積の技術を生かして発電所建設に関わり、これが建設会社に

成長する切っ掛けになったそうです。

発電された電力は福井の織物業の発展に寄与しました

が、戦後の大型ダム建設が主流になるにつれ、その役目を終えました。

使われなくなった発電機と水車は、その後、北陸高等学校の教材として使われ、後に熊谷組に寄付されました。近年は、北陸電力が所有していたそうです。今回の整備に伴って、展示館が建てられそこに展示されています。



まだ工事中なので、一般公開は秋になるそうです。期待したいですね。

新名物だよ左近ちゃん煎餅

酒生の名物に酒生饅頭があります。祭りなどに販売して好評を得ています。今年は、さらに左近ちゃん煎餅を企画しました。五重の塔で使われていたとされる「布目瓦」に左近ちゃんと五重の塔をデザインしたものです。素直な味わいで子供からお年寄りまで誰にも好かれる煎餅

だと自負しています。デザインは公民館ですが、実際に1枚1枚手焼きで焼いているのは兵庫県芦屋市のお店です。祭りなどの催し物に合わせ、必要な数を注文しています。



じゃあ、またね。

